

もっと貝塚や遺跡のことを知りたい!

こちらの本やパンフレットでは、もっと遺跡のことを詳しく知ることができます。
写真横のコードから読むことができるほか、船橋市内の図書館・郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館でも入手できます。ぜひ読んでみてください。

取掛西貝塚のことをもっと知りたい!



取掛西貝塚の見どころを、わかりやすく紹介しています。

(無料で配っています)



取掛西貝塚について、遺跡の特徴や最新の調査成果を、詳しく解説しています。

(無料で配っています)



リーフレット
「取掛西貝塚ってどんな遺跡？」
B5サイズ・フルカラー4ページ

パンフレット
「取掛西貝塚 1万年前の貝塚からみえる暮らしと環境」
A4サイズ・フルカラー8ページ

船橋市にある他の遺跡をもっと知りたい!



船橋市に約200か所ある遺跡の地図や、遺跡からわかる船橋市の歴史がのっています。

(無料で配っています)



船橋市にある主な遺跡15か所で見つかったムラやお墓のあと、道具などについて、わかりやすく紹介しています。

(1冊300円)



「意の足元におむる船橋の遺跡マップ」
A2サイズ折りたたみ・両面フルカラー

「ふなばしの遺跡」
A4サイズ・フルカラー44ページ

もっと知りたい! 本物の、縄文土器や石器を見たい!

飛ノ台史跡公園博物館

〒273-0021 船橋市海神4-27-2 電話: 047-495-1325



船橋市の飛ノ台史跡公園博物館では、縄文時代の船橋について展示しています。また、取掛西貝塚で見つかった貝塚の一部も見ることができます。ぜひ来てみてください!

「1万年前の世界をのぞいてみよう 取掛西貝塚」
編集・発行 船橋市教育委員会生涯学習部文化課
令和3(2021)年3月16日発行
千葉県船橋市湊町2-10-25
電話: 047-436-2887



1万年前の世界をのぞいてみよう

とり かけ にし かい づか
取掛西貝塚

千葉県船橋市

とり かけ にし かい づか 取掛西貝塚について

取掛西貝塚では、およそ1万年前のムラのあとや貝塚（人が食べたあとに捨てた貝殻の山）が見つかりました。

全国的にもとても古い貝塚で、大変貴重な遺跡（昔のムラやお墓やお城の跡）です。

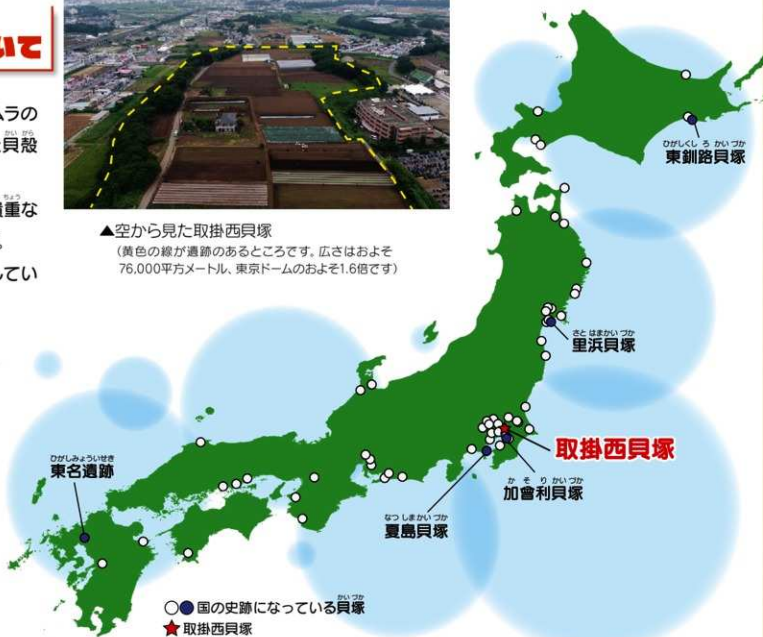
1万年前の人々は、どんなくらしをしていたのでしょうか。



▲空から見た取掛西貝塚
(黄色の線が遺跡のあるところです。広さはおよそ76,000平方メートル、東京ドームのおよそ1.6倍です)



取掛西貝塚



●○国の史跡になっている貝塚
★取掛西貝塚

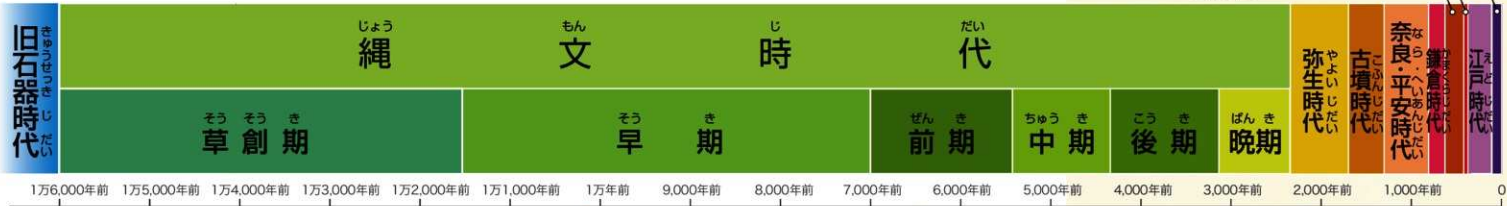


▲貝塚には縄文人が食べた貝殻がぎっしり！
動物の骨なども捨てられていました

全国レベルの重要な遺跡

日本中にたくさんある遺跡のなかで、とくに重要な価値のある遺跡は、国の「史跡」として守られています。

取掛西貝塚は、貝塚のはじまりを知ることのできる、日本全国からみても、とても貴重で大事な、みんなですべてとっていききたい遺跡なのです。



取掛西貝塚では、およそ1万年前のほかにも、いくつかの時代のムラのあとが見つかりました（↑のところ）。

それぞれくらべてみると、くらしのようすが少しがっています。

●縄文時代のくらし

縄文時代には、人々はムラをつくり集まって住むようになり、狩りや漁をする、植物や木の実をとるなど、自然にあるものを食べ物や道具の材料にしていました。縄文時代は、1万年をこえる、とても長いあいだ続きました。

●弥生時代のくらし

弥生時代には、大陸や朝鮮半島から米作りが伝わり、田んぼを耕して稲を育て、米を作って食べていました。また、金属の道具も伝わり、使うようになりました。

くらべてみよう！縄文時代と今の暮らし

縄文時代と今の暮らしは、どれくらいちがっているのでしょうか。ここでは衣・食・住に分けて、取掛西貝塚で見つかった1万年前のものが、今の暮らしで何にあてはまるか見ていきましょう。

約1万年前（縄文時代）

衣 着飾る



アクセサリーをつけた縄文人
(イメージです)

貝殻(ツノガイ・タカラガイ・ヤマトシジミ)や動物の骨・歯(サメ)・牙(イノシシ)で作られた、アクセサリーがたくさん見つかりました。ビーズやペンダント、髪留めなどを身につけていたようです。



今（現代）

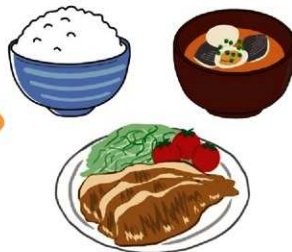


食 食べる



狩りのようす(落とし穴・弓矢)

貝塚では、当時の人々が食べていた動物の骨や貝殻が見つかりました。(イノシシ、シカ、ウサギ、タヌキ、キツネ、アナグマ、ムササビ、キジ、カモ、ハクチョウ、クロダイ、スズキ、コイ、フナ、アユ、ヤマトシジミなど)。このほか、食べ物では木の実も見つかっています(クルミ、ミズキ、ダイズ、ニワトコなど)。



炉跡（火を焚いたあと）

約100年前（近代）

住 住む



※縄文時代の住居
(イメージです)



取掛西貝塚では、地面を掘って作った家のあと(竪穴住居跡)がたくさん見つかりました。床には柱を立てるための穴がいくつも掘られています。



道具とくらしのうつりかわり

同じ役割をする道具をならべてみると、昔と今のくらしのようすのちがいがみえてきます。ここでは料理に使う道具をみながら、1万年前から今まで、どのように変わってきたか見てみましょう。

約1万年前（縄文時代）



縄文土器



粘土を焼いて作った土器を、煮炊きや物を入れるのに使っていました。

約100 年前（近代）



羽釜

今（現代）



鍋



フライパン

灰や焼けた土が残っています



炉



家の床や地面を浅く掘って火を焚くことで暖まるとともに、煮炊きをしていたようです。



かまど



電子レンジ



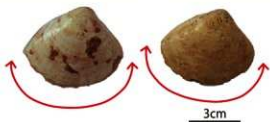
IH調理器

ほかにも、1万年前の貝塚からはこのような道具が見つかりました。今使われている道具とあまり変わらないものもありますが、今のくらしではふだん使われないような、狩りや漁の道具などもあります。



1cm

骨針
(毛皮などを縫う針)



ギザギザの刃がつくられている

3cm

貝刃
(魚のウロコなどを取る道具)



2cm

石鏃・骨鏃
(狩りに使う弓矢の矢じり)



3cm

骨角製刺突具
(魚などの獲物を突く道具)

